

乳腺・内分泌外科医長 もりた 森田 みち 道

Hope for the BEST.  
Prepare for the  
WORST.

令和6年4月より、長崎医療センターで乳腺・内分泌外科を担当しております、森田 道(もりた みち)です。「最善を望み、最悪に備える(Hope for the best, prepare for the worst)」をモットーに、日々の診療にあたっています。

乳癌は日本人女性がかかる癌の中では最も多い癌で、今や9人に1人が経験するといわれるほどです。また、年代別に見ると、30代から患者さんの数が増え、40代後半と60代のふたつのピークはありますが、30代以降の全年代で発見されるリスクのある病気です。30代～60代といえば、家庭生活でも結婚・妊娠出産・子育て・介護と大きな役割を担うことが多い年代ですし、社会生活でも、たとえば、仕事で責任のあることがらを任されたり、団体の代表的立場に立ったり、地域の中心となって社会を運営したりと、ひとりひとりがそれぞれに、自身のため、他者のために精一杯生きている年代かなと思います。(この年代を



壮年期と定義し、気力・体力共に最も充実している、と表現されていることもあります。ただし、この定義にはゆれがあります。)

そんな方々の日々の生活が、病気や治療によって全く奪われてしまうということがないように、限られた診療時間の中ではありますが、その方が培ってこられた生活文化を少しでも教えていただき、ご本人、ご家族と同じ目標を共有して治療の相談ができるように努めていきます。

